Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.258
2016.9.25
（毎月1回25日発行）

【栗皮色（くりかわいろ）】黒みがかった赤褐色のこと。

別名「栗皮茶」。栗色より少し濃い褐色。栗は幹、樹皮、葉、イガ、鬼皮、渋皮などすべての煎汁が染料になるが、ミョウバン、酸化アルミニウム、鉄、灰汁など何を媒染に用いるかによって染め上がりの色が異なる。一般に樹皮を使うものを栗皮染めと言う。

●目次／*contents*

調査研究事業報告……2
平成26・27年度「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究」報告

財団からのお知らせ……4
平成29年度「公共ホール音楽活性化支援事業（おんかつ支援）」実施団体募集／平成29年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業（ダン活支援）」実施団体募集／（一財）自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始／ステージラボ豊田セッション開催のお知らせ／平成28年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」スタート

今月の情報……6
地域通信／特集 アートプロジェクト

今月のレポート……12
香川県高松市　高松市美術館 特別展「ヤノベケンジ シネマタイズ」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●平成26・27年度「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究」

文化的コモンズが、新時代の地域を創造する

「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究」の成果から

鍵を握るコーディネーターの育成

吉本光宏
（ニッセイ基礎研究所 研究理事）

この度、平成26・27年度に実施した「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究」の報告書が発行された。ここではその要旨を紹介したい。

●求められる多様な人材

地域の公立文化施設に期待される役割は多様化し、事業や運営に携わる人材にはこれまで以上に幅広い能力や経験、ネットワークが求められるようになってきた。そこで今回の調査研究では、まず公立文化施設の職員やアートマネジメント人材の育成に関する過去の調査研究や人材育成事業の事例について、整理・分析を行った。

その上で、平成24・25年度の「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」で示された「公立の文化拠点は文化的コモンズの形成を」という提言を受け継ぎ、それを実現するために求められる人材のあり方に焦点を当てて調査・検討を行い、提言を取りまとめた。

なお、調査研究の実施に際しては、各分野の専門家による調査研究委員会を設置し、調査研究の内容や方法、調査結果の分析や提言、報告書の取りまとめ等について、意見交換と検討を行った。

●各地で形成の進む文化的コモンズ

過去の調査結果を参照して、分野や地域バランスを考慮しながら、文化的コモンズが顕在化していると考えられる地域と中心的な施設や団体を選出し、現地調査と関係者へのインタビューを行った。その結果、各地で多様な文化的コモンズの形成が進んでいることが明らかとなった。5件の調査結果の概要は次のとおりである。

◎北海道富良野市

1999年に設立された全国認証第1号のアートNPO「ふらの演劇工房」の活動が起点となって、富良野演劇工場の事業運営を中核に進められてきた「演劇のまち富良野」は、小学校での演劇教育、高校での演劇ワークショップ、観光、子育て、まちづくりなどへと広がりを見せている。今では行政組織も巻き込み、重層的な文化的コモンズが形成されている。

◎青森県八戸市

八戸ポータルミュージアム はっちの活動は、地域資源を活用した新たな魅力を創出することで、中心市街地や市全体を活性化させている。具体的には、商店街の空き店舗の減少、南郷地区における地域文化活動の展開、地元酒造メーカーのメセナ活動などへと結びつき、文化・芸術のみならず、ものづくり振興、観光振興など分野を横断したまちづくりで成果を発揮している。

◎茨城県小美玉市

徹底した住民参加で事業や運営を推進してきた四季文化館みの～れの成果をベースに、市内3つの会館を拠点に住民と行政の共創により地域の活性化を図る「小美玉市まるごと文化ホール計画」を策定。文化施設の住民参画から始まった取り組みが地域の文化的コモンズを形成し、その経験と実績が地方創生など行政の重要施策に活かされつつある。

◎広島県尾道市

斜面地に広がる固有の町並みの維持を目的に空き家の再生・活用に取り組むNPO法人「尾道空き家再生プロジェクト」を中核に、文化・芸術、観光、コミュニティづくりなどの分野において、クリエイティブな人材が集まる「人が人を呼ぶ」構造が生まれ、独自の文化的コモンズが形成されている。行政との連携も生まれて、地域に新たな活力が生み出されている。

◎北九州市

2003年の開館以来、オリジナル作品のプロデュースや若手演劇人の育成、小中学校でのアウトリーチ、多彩な鑑賞事業などを展開してきた北九州芸術劇場は、演劇やダンスなど舞台芸術の専門性を活用し、商店街や福祉団体、地元航空会社、J2サッカーチームなど多様な団体との協働によるユニークな事業を展開。地域との関係を積極的に広げることで文化的コモンズの中心的な役割を担っている。

●調査研究委員会
大月ヒロ子（有限会社イデア 代表取締役）
鬼木和浩（横浜市文化観光局文化振興課 主任調査員）
真田弘彦（公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業課長）
篠田信子（富良野メセナ協会 代表）
堤康彦（NPO法人芸術家と子どもたち 代表）
藤野一夫（神戸大学大学院 教授）
吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長）
渡辺弘（公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 業務執行理事）
※五十音順、敬称略（所属・肩書きは委員就任当時のもの）

●グループインタビュー参加者
大澤苑美（八戸市 まちづくり文化スポーツ観光部 芸術環境創造専門員）
小川智紀（特定非営利活動法人STスポット横浜 理事長）
小澤櫻作（上田市交流文化芸術センター プロデューサー）
古賀弥生（NPO法人アートサポートふくおか 代表）
楠本智郎（つなぎ美術館（熊本県津奈木町）学芸員）
中本正樹（小美玉市 市長公室 政策調整課）
水戸雅彦（仙南芸術文化センター えずこホール 所長）
吉川由美（ENVISI代表・プロデューサー）
※五十音順、敬称略（所属・肩書きはインタビュー実施当時のもの）

●重要な役割を果たすコーディネーター

5カ所の現地調査の結果、文化的コモンズの形成には、文化・芸術と地域住民との間で、出会いや交流の機会を創出するため、さまざまな企画の立案、調整、運営を行うコーディネーター的な人材が、極めて重要な役割を果たしていることが浮かび上がってきた。

それを前提に、各地の文化的コモンズの形成において中心的な役割を担ってきた制作者やコーディネーターを対象にグループインタビューを行い、必要な人材像、人材を取り巻く環境の現状や課題、人材の育成・確保のあり方などについて調査を行った。そこから導き出された主な論点は次のとおりである。

文化施設を取り巻く環境は大きく変化し、文化施設は物理的な場所や空間としての「施設」から、そこを拠点に地域の資源や人材を結び付けてネットワークを形成していくための「機関」への指向が強まっており、そうした流れの中で文化的コモンズに対する理解が広がっている。一方で、文化的コモンズの形成を担うコーディネーターの任用やキャリア形成には課題やジレンマがあり、雇用形態などの制度を含め、コーディネーターの役割や能力が発揮できるような組織や環境の整備が必要である。また、コーディネーターの成長には住民との対話やフィールドワークなど現場での経験が必要で、コーディネーターを継続的に育成するためにはコーチ(人材を育てるための人材)の確保も求められている。

●2つの提言

こうした調査結果を踏まえ、調査研究委員会で検討を行い、本調査研究の成果として次の2つの提言をとりまとめた。

◎提言1　地域活力の創出、自治基盤の形成に向けた文化的コモンズづくりを

文化・芸術には、地域の活力を創出し、自治の基盤をつくっていく力がある。この文化的営みの総体こそ文化的コモンズだ。地方自治体の行政(以下、「行政」という)や文化・芸術の拠点である公立文化施設(以下、「文化拠点」という)は、文化的コモンズを形成する役割を担うという視点に立って、文化に係わる政策形成や文化施設の運営に積極的に取り組むべきである。

◎提言2　文化的コモンズを担う人材、特にコーディネーターの育成・確保が必要

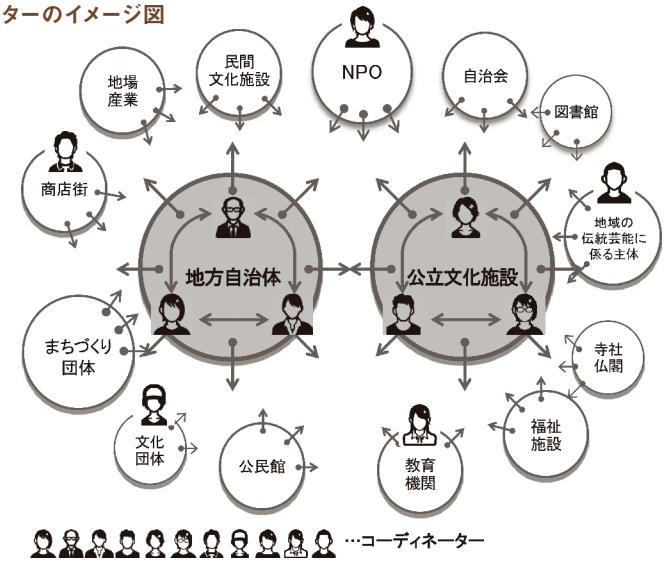
文化的コモンズを形成するには、それを担う人材が必要であり、特に、各々の組織内をつなぎ、また組織外とをつなぐ「コーディネーター」が重要である。「行政や文化拠点」は、「地域におけるさまざまな担い手」と連携しながら、人材、そしてとりわけ「コーディネーター」を育成・確保する必要がある。また同時に、「コーディネーター」が活躍できる環境を整備する必要がある。

文化的コモンズは、元々、東日本大震災以降の地域の文化施設の役割を検討する過程で生まれた概念である。今回の調査では、それがこれからの文化行政や文化施設の方向性を考える上で極めて有効であることを再認識するとともに、文化的コモンズの形成にとって、コーディネーター的な人材が鍵を握っていることが明らかとなった。

この報告書が、文化・芸術を核にした今後の地域振興にとって有効に活用されることを期待したい。

●「文化的コモンズ」とは
英語のコモン(common)という言葉には、「共通の、公の、公共の」といった形容詞としての意味があり、複数形のコモンズ(commons)は、「共有地、公共緑地(広場・公園など)」といった意味の名詞でもある。日本では、地域の共同体が、薪炭・用材・肥料用の落葉を採取するために総有する山林や原野などの土地を「入会地」と呼び、これが英語のcommonsに相当する。本提言では、地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体を「文化的コモンズ」と表している。
(財団法人地域創造「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究 ―文化的コモンズの形成に向けて―」(平成26年3月)より)

コーディネーターのイメージ図



財団からのお知らせ

●平成29年度「公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)実施団体を対象とした2カ年にわたるフォローアッププログラムです。おんかつで蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。

なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

◎対象団体
- おんかつを平成27年度または28年度に実施した市町村等
- おんかつ支援を平成28年度に初めて実施した市町村等。

◎対象アーティスト
公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト(87組)

◎支援内容
支援1年目は以下の①～②に係る経費の2/3を、2年目は1/3を地域創造が助成します。
①演奏家に係る経費:
出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料
②地域交流プログラムに係る経費:
ピアノ調律料のみ(10万円限度)
※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

募集締切:10月25日(火)必着

●平成29年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

◎対象団体
- ダン活を平成27年度または28年度に実施した地方公共団体等
- ダン活支援を平成28年度に初めて実施した地方公共団体等

◎対象アーティスト
公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(22組)

◎支援内容
支援1年目は以下の①～③に係る経費の2/3を、2年目は1/3を地域創造が助成します。
①公演、地域交流プログラムおよび関係者向けワークショップに係る経費:
アーティスト、アシスタント(ソロの場合のみ)、共演者、テクニカルスタッフ等の出演料等(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料
②現地下見に係る経費:
アーティスト、テクニカルスタッフ等の交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料
③舞台費:
舞台監督、照明、音響テクニカルスタッフ等の公演の実施に必要となる人件費(上限あり)
※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

募集締切:10月31日(月)必着

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始について

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(ただし政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび平成29年度事業の募集が開始されましたのでお知らせしますとともに、積極的なご活用をお願いします。締切は各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ]一般財団法人自治総合センター
担当:中嶋　Tel. 03-3504-0841
※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。
http://www.jichi-sogo.jp/
※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(水)必着。

●「公共ホール音楽活性化支援事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　清宮
Tel. 03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

●「公共ホール現代ダンス活性化支援事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　江坂・栗林・湯澤
Tel. 03-5573-4073・4055・4077
dankatsu@jafra.or.jp

●ステージラボ豊田セッション開催のお知らせ

ステージラボは公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。今年度後期セッション（日程：2017年2月21日（火）～24日（金））は、愛知県の豊田市民文化会館（豊田市小坂町12-100）を会場に、ホール入門、自主事業Ⅰ（音楽）、自主事業Ⅱ（演劇）の3コースを予定しています。

詳細および参加者募集については、次号11月号（10月25日発行）および当財団ウェブサイトにてお知らせします。

募集締切：11月20日（日）必着

◎豊田市民文化会館

劇場タイプの多目的ホールをもつ文化施設です。コンサート・舞踊・大会などに利用されている大ホールのほかに、小ホール、リハーサル室、練習室・展示室などがあります。

運営団体の（公財）豊田市文化振興財団は、自動車産業の発展とともに地域社会が成熟化し、市民の文化芸術活動や生涯学習活動への参加意欲の高まりなどがあり、前身である（財）豊田文化協会、（財）豊田市文教施設協会、（財）豊田市青少年活動協会が統合して発足しました。

以来、豊田市における文化芸術の振興、青少年の健全な育成および生涯学習の推進に寄与すべく、農村舞台アートプロジェクトなどさまざまな自主企画事業や、ジュニアオーケストラ、少年少女合唱団、ジュニアマーチングバンド、とよた演劇アカデミーなどの育成事業に取り組んでいます。

同財団は、市民文化会館のほか、豊田市コンサートホール・能楽堂、市民ギャラリー、また総合野外センターや産業文化センターなども運営しています。

●平成28年度公共ホール演劇ネットワーク事業「演出家だらけの青木さん家の奥さん」がスタートがします

「公共ホール演劇ネットワーク事業」は、複数の公共ホールが共同して演劇作品の上演とワークショップなど地域交流プログラムを実施するものです。この事業に参加する公共ホールは実行委員会等を組織し、制作会議などを重ねながら、運営、広報、宣伝等の業務について協力しあいます。ホールごとの独自の試みや集客方法、制作ノウハウをお互いに共有するという過程を通して、各ホール担当者の企画・制作能力の向上を図ることができます。また、複数の公共ホールが連携することで予算を抑えることができ、ホール単独では実施が難しい演劇公演を可能にします。

今年度は、即興劇の名作として上演を重ねてきた『青木さん家の奥さん』を、作・演出の内藤裕敬（南河内万歳一座）、岩崎正裕（劇団太陽族）、多田淳之介（東京デスロック）、田上豊（田上パル）の演出家4人と、南河内万歳一座の俳優でもあり演出家でもある鈴村貴彦、荒谷清水に加え、公演地ごとのゲスト出演者により『演出家だらけの青木さん家の奥さん』として上演します。

併せて、内藤、岩崎、多田、田上の4氏が各公演地の学校でのアウトリーチや地域の表現者を対象にしたワークショップを実施します。

『青木さん家の奥さん』作・演出 内藤裕敬
（2015年10月17日、18日／三重県文化会館 小ホール）
撮影：岡野礼音

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部　上木・宇野
Tel. 03-5573-4068・4066

●平成28年度公共ホール演劇ネットワーク事業「演出家だらけの青木さん家の奥さん」
2016年10月22日、23日／高知市文化プラザかるぽーと
10月26日／豊中市ローズ文化ホール
10月29日、30日／北九州芸術劇場
2017年3月4日、5日／上田市交流文化芸術センター
3月11日／魚沼市小出郷文化会館
◎問い合わせ
芸術環境部　小林・工藤
Tel. 03-5573-4124・4076

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。☜マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・小川

●12月号情報締切
11月2日(水)

●12月号掲載対象情報
12月～2017年2月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954　札幌市中央区宮の森4条12丁目
Tel. 011-642-5709　樋泉綾子
http://www.hongoshin-smos.jp/

野又圭司展　脱出―困難な未来を生きるために―
北海道の中堅彫刻家を紹介するシリーズの2回目。今回は栗沢町在住の野又圭司(1963～)を紹介。建造物などの精巧な造形を通して現代社会を鋭く批判する作品を展開するこの作家による全長5メートルの新作《脱出》をはじめ、大型作品7点を中心に展示する。
[日程]10月5日～12月4日
[会場]本郷新記念札幌彫刻美術館

●北海道函館市

北海道立函館美術館
〒040-0001　函館市五稜郭町37-6
Tel. 0138-56-6311　柳沢弥生
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-hakmu/home_jp.html

開館30周年 生誕110年記念 金子鷗亭の世界
北海道松前町出身の書家・金子鷗亭(1906～2001)の生誕110年を記念した展覧会。この美術館には作家からの寄贈作品を基に開館時より記念室が設けられているが、本展では普段展示できない大作や名品などを含め、約130点を一堂に展示。また、地元の高校生による書のパフォーマンスなど、書の裾野を広げる多彩な事業が楽しめる。
[日程]10月8日～12月11日
[会場]北海道立函館美術館

●仙台市

せんくら事務局
〒981-0904　仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
(仙台市市民文化事業団内)
Tel. 022-727-1872　佐藤香奈子
http://sencla.com/

第11回仙台クラシックフェスティバル2016
毎年秋に開催され、「せんくら」の愛称で親しまれている音楽祭。仙台市内の文化施設や地下鉄の駅で、45～60分の公演が1,000～2,000円の料金で気軽に楽しめる(一部公演は無料)。仙台フィルなどのオーケストラや室内楽、ソロなど国内外の一流アーティストによるさまざまなコンサートが行われ、来場者はライフスタイルに合わせ、自分だけの楽しみ方を選ぶことができる。
[日程]9月30日～10月2日
[会場]日立システムズホール仙台、イズミティ21、地下鉄仙台駅ほか

昨年の様子(宮城教育大学リコーダーず「小学生のための一放課後の音楽室―」)

●宮城県蔵王町 ☜

蔵王町教育委員会
〒989-0821　刈田郡蔵王町大字円田字西浦5
Tel. 0224-33-2018　我妻健太
http://www.gozain.jp/

加川広重アートプロジェクト「絵画でつながる世界」
蔵王町出身の画家・加川広重の巨大水彩画(幅約16メートル、高さ約5.5メートル)《雪に包まれる被災地》《フクシマ》の2作品を同時に展示。「絵画でつながる」をキーワードにワークショップやトークイベント、作者による絵画教室などさまざまな関連イベントも開催される。
[日程]10月1日～10日
[会場]蔵王町ふるさと文化会館

《雪に包まれる被災地》(2011年／5.4m×16.4m／紙に水彩)

●秋田県秋田市 ☜

石井漠・土方巽記念 国際ダンスフェスティバル実行委員会
〒011-0951　秋田市土崎港相染町字沼端71-11
Tel. 018-874-9037　金子美和
http://www.odoru-akita.org/

石井漠・土方巽記念 国際ダンスフェスティバル『踊る。秋田2016』
石井漠、土方巽など日本を代表する舞踊家・舞踏家を輩出した秋田において、「秋田から考える日本、世界の舞踊・舞踏」をテーマにダンス講座や公演を開催するフェスティバル。韓国、アメリカ、台湾からアーティストを招聘する。昨年のプレイベントに引き続き、大駱駝艦の『ムシノホシ』公演を実施。ほかにも地元ダンサーの舞踊公演、舞踏ポスター展などが開催される。
[日程]10月31日～11月6日
[会場]秋田市文化会館ほか

関東

●茨城県小美玉市

小美玉市文化センター(アピオス)
〒311-3423　小美玉市小川225
Tel. 0299-58-0921　林美佐
http://www.city.omitama.lg.jp

APIOS STREETDANCE FESTIVAL ―ONE―2016
“一人ひとりが主役となって輝くステージ”をモットーに、小川文化センター活性化委員会で知恵を出しあって企画し、昨年から

始まったダンスフェスティバル。国内外で活躍するストリートダンサーのパフォーマンスと、国内トップアーティストによるダンスワークショップに参加した105人の地域住民による壮大な公演や、小ホールではダンスバトル、屋外では地域の特色を生かしたグルメセレクションやグッズの販売も行われる。
[日程]10月2日
[会場]小美玉市文化センター(アピオス)

昨年のフィナーレ公演の様子

●栃木県足利市
足利市みどりと文化・スポーツ財団、足利市教育委員会
〒326-0801　足利市有楽町837
Tel. 0284-41-2121　土屋博英
http://shimin-kaikan.ashikaga-mbs.or.jp

足利市民会館「移動劇場」足利カンマーオーケスターによる足利市民芸術鑑賞教室

足利市民会館専属プロフェッショナル芸術集団・足利カンマーオーケスターによるアウトリーチ公演。市内17の公民館を会場に平成26年度にスタート。クラシックの名曲中心のプログラムで、気軽に生の芸術にふれられる機会となっている。今年度は事業3年目の集大成として、同じ専属芸術集団「足利オペラ・リリカ」との合同による特別公演も11月に予定されている。
[日程・会場]10月22日:御厨公民館／23日:北郷公民館

足利市民芸術鑑賞教室(移動劇場)(2016年1月／助戸公民館)

●さいたま市
さいたま市文化振興事業団
〒336-0932　さいたま市緑区中尾1440-8
Tel. 048-875-9933　井藤秀文
http://www.saitama-culture.jp/plazaest/

街の魅力発見! プラザイースト演劇アカデミア『歌うスケアクロウ』

さいたま市指定の無形文化財や伝統文化など地元の資源を活用し、オリジナルの演劇を制作。さいたま市緑区出身の武笠三が作詞した見沼たんぼのかかしを歌った唱歌『案山子』を題材にしたストーリーを、自主事業の成果として発足した市民劇団「Liebe」が演じる。演劇を通して新たな街の魅力を発信し、地域の素晴らしさを伝えることを目指している。
[日程]10月8日、9日
[会場]プラザイースト

●東京都新宿区
新宿未来創造財団
〒160-0022 新宿区新宿6-14-1
Tel. 03-3350-1141　山本ひろみ
http://www.regasu-shinjuku.or.jp/bunka-center/

新宿フォークソングが流れる街～新宿には今日もフォークソングが流れている～

新宿を再びフォークソングが流れる街にすることを目的として、なぎら健壱の呼びかけにより昨年から始まった企画。歌を通して団塊世代の活気を取り戻すほか、これからの若き世代へのメッセージも込められている。期間中はなぎらや小室等率いる六文銭'09、カルメン・マキ、あがた森魚らのライブをはじめ、フォークソングレクチャーや、当時の時代背景を振り返る写真展なども行われる。
[日程]10月10日
[会場]新宿文化センター

●東京都目黒区
目黒区美術館
〒153-0063 目黒区目黒2-4-36
Tel. 03-3714-1201　降旗千賀子
http://mmat.jp/

色の博物誌 ―江戸の色材を視る・読む

美術表現における色の原材料とその特質に着目した「色の博物誌」シリーズ。12年ぶり6回目となる今回は「江戸時代の豊饒な色材」をテーマに開催。幕府が各藩に描かせた「国絵図」と庶民が愛玩した「浮世絵」という両極にある2つの世界に焦点を当て、復元作品や色材、江戸の画法書なども交えながら、色をあえて見ることの楽しさを提示する。
[日程]10月22日～12月18日
[会場]目黒区美術館

●横浜市
横浜アーツフェスティバル実行委員会
〒231-0015　横浜市中区尾上町1-8　関内新井ビル6F
Tel. 045-663-1365　渥美・中島
http://yokooto.jp/program/6-2/

別所哲也プロデュース　横浜18区ショートフィルム＆コンサート 清水和音ピアノリサイタル

市内18区の文化施設で行われる、映画と音楽の魅力を伝えるプログラム。「ショートショートフィルムフェスティバル＆アジア」代表の別所哲也の選定による音楽をテーマにしたショートフィルムを上映。ピアニスト・清水和音を中心とするメンバーによる上映後のコンサートでは、劇中で使用された曲をはじめ、一般に馴染みのあるクラシックの名曲が演奏され、短編映画と音楽の融合を目指す。
[日程]9月27日～11月24日
[会場]サルビアホールほか

●横浜市
横濱JAZZ PROMENADE実行委員会事務局
〒231-0001　横浜市中区新港1-1-1(横浜赤レンガ倉庫1号館内)
Tel. 045-211-1510　渡辺明美
http://jazzpro.jp/

横濱JAZZ PROMENADE 2016

“街全体をステージに”を合言葉に、1993年から続くジャズフェスティバル。歴史的建造物やジャズクラブ、屋外の街角などで、市民とプロの演奏家が同時多発で演奏を披露し、フリーパスを持てば市内約50カ所の会場を自由に回れる。今年はジェントル・フォレスト・オーケストラや、佐藤洋祐、高木里代子らが出演。また北米代表のデトロイト・ジャズ・フェスティバルとの交流が始まり、出演者の相互派遣が行われる。
[日程]10月8日、9日
[会場]横浜市開港記念会館ほか市内約50会場

北陸・中部

●富山県入善町
入善町文化振興財団
〒939-0626　下新川郡入善町入膳3200
Tel. 0765-72-1105　澤田誠
http://www.town.nyuzen.toyama.jp/cosmo/kyoiku/bunka/kominkan/cosmohall/

ポール・メイエ＆クァルテット・エクセルシオ演奏会

開館30周年を記念して、フランスのクラリネット奏者ポール・メイエが、日本の弦楽四重奏団クァルテット・エクセルシオと共演。公演後にエクセルシオが入善町内の小学校でアウトリーチ活動を行うほか、メイエによ

る地元市民を対象にしたワークショップも開催され、演奏会では、市民とメイエとのアンサンブルも披露される。
[日程]10月16日
[会場]入善コスモホール

●岐阜県山県市
山県市教育委員会
〒501-2125　山県市洞田127-135
Tel. 0581-36-2323　伊藤直樹
http://www.city.yamagata.gifu.jp/kyoiku/gakusyu/hanasaki/event/p-7816.html

音楽とダンスのコラボレーション公演

今年で3回目となるコンテンポラリーダンスと音楽の公演。今回はセレノグラフィカ、早稲田桜子(ヴァイオリン)、櫻井健(チェロ)が参加。竹取物語をモチーフに、音楽からイメージするダンス・体の動きからイメージする音楽の組み合わせにより、それぞれの魅力を引き出す。事前にワークショップが行われ、本番ではワークショップ参加者が出演するプログラムも予定されている。
[日程]10月15日
[会場]花咲きホール

●愛知県長久手市
ながくてアートフェスティバル実行委員会
〒480-1166　長久手市野田農201(長久手市文化の家内)
Tel. 0561-61-3411　市野華奈子
http://nagakuteartfestival.com/

ながくてアートフェスティバル2016

アートでまちを活性化し、人と人を繋ぐきっかけの場として始まったフェスティバルで、今年で10回目。長久手市文化の家館内のあちこちに約30名の作家の作品が展示され、市内の店舗や公共施設にも作品が展示される。ほかにも、さまざまなアート作品制作体験教室、作家の工房を訪ねるプログラムなどを実施。
[日程]10月1日～23日
[会場]長久手市文化の家ほか市内各所

近畿

●滋賀県大津市
滋賀県立近代美術館
〒520-2122　大津市瀬田南大萱町1740-1
Tel. 077-543-2111　和澄浩介
http://www.shiga-kinbi.jp/

つながる美・引き継ぐ心―琵琶湖文化館の足跡と新たな美術館

2020年3月のリニューアルに向け再整備を進める滋賀県立近代美術館。その新生美術館の3つの美の柱のひとつが「神と仏の美」。1961年から国宝・重要文化財を含む県内の寺社からの寄託品などを収蔵、展示してきた琵琶湖文化館は2008年より老朽化等の理由で休館しており、新しい美術館がその機能を引き継ぐことになる。本展では、琵琶湖文化館のこれまでの取り組みとこれからの展望を紹介する。
[日程]10月8日～11月23日
[会場]滋賀県立近代美術館

●滋賀県近江八幡市
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
〒523-0849　近江八幡市永原町上16
Tel. 0748-36-5018
http://www.no-ma.jp/

企画展「楽園の夢」

つくり方も素材もさまざまな作者6名の想像する楽園の世界観を展示。アール・ブリュット(「生の芸術」という意味のフランス語。正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した、既存のモードに影響を受けていない絵画や造形などを指す。)の作者と現代アーティストが生み出した作品を通じて、鑑賞者がありふれた日常の中に何かを創造し、自ら表現するきっかけとなることを狙いとする。
[日程]9月3日～11月27日
[会場]ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

●京都市
京都国際舞台芸術祭実行委員会
〒604-8152　京都市中京区烏丸通蛸薬師下ル手洗水町645 flowing KARASUMA 2F
Tel. 075-213-5839　門脇俊輔
http://kyoto-ex.jp/

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN

演劇、ダンスのみならず、ジャンルを問わずさまざまなフィールドで活躍する表現者を紹介する芸術祭。7回目の今回は、1月にリニューアルしたロームシアター京都のオープニング事業として開催。演劇や言葉をベースとした表現が多く取り上げられ、12組のアーティストによるプログラム、「こどもとおとなの演劇祭プレイ！パーク」として子どもと大人が一緒に楽しめる4つのプログラムも実施される。
[日程]10月22日～11月13日
[会場]ロームシアター京都ほか

●大阪府枚方市
枚方市文化国際財団
〒573-0032　枚方市岡東町8-33
Tel. 072-843-1123　円谷・木田
http://www.hirabunkoku.or.jp/culture/opera2.html

枚方シティオペラ第2回公演 ガラコンサート&オペラ「椿姫」ハイライト

枚方市出身で国内や本場イタリアで演出家として活躍する奥村啓吾(枚方シティオペラ芸術監督)の演出で、昨年トスカを熱演し好評だった並河寿美が、今回は『椿姫』でヴィオレッタに初挑戦。また一般公募により編成した枚方シティオペラ合唱団約60人が、今年7月から約20回の練習を経て、バックコーラスなどを務める。
[日程]10月23日
[会場]枚方市市民会館

●神戸市
神戸市民文化振興財団
〒650-0017　神戸市中央区楠町4-2-2(神戸文化ホール内)
Tel. 078-351-3597　近藤のぞみ
http://www.kobe-bunka.jp/new/kobemusicfestival2016

神戸国際芸術祭2016

神戸市室内合奏団と海外で活躍する演奏家たちとの共演を通じて、神戸文化ホールの発信力の強化と、音楽を通じたまちづくりの推進を目的とした音楽祭。ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルで活躍するヘーデンボルク・直樹を音楽顧問に迎え、2006年より開催している。またアートマネジメントに関心のある学生による小学生のためのコンサートも実施される。
[日程]10月15日～19日
[会場]神戸市内各所

●兵庫県姫路市・赤穂市
姫路国際音楽祭実行委員会／赤穂国際音楽祭実行委員会
〒670-8501　姫路市安田4-1(姫路市文化国際課内)
Tel. 079-221-2098　村上貴志
http://www.imf-le-pont.jp/

ル・ポン国際音楽祭2016 赤穂・姫路

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター樫本大進の「聴衆に身近な手づくりの音楽祭を」という提案から2007年に始まった音楽祭。10周年となる今年は樫本の呼びかけにより過去最多の音楽家18名が各国から集い、これまでの軌跡をたどるプログラム構成で赤穂

市、姫路市の4会場で6公演が行われるほか、10周年を記念した東京特別公演がサントリーホールで行われる。
[日程]10月8日～17日
[会場]パルナソスホール、赤穂市文化会館ハーモニーホール、姫路城二の丸ほか

●兵庫県伊丹市
伊丹市文化振興財団
〒664-0846　伊丹市伊丹2-4-1
Tel. 072-782-2000　權田康行
http://www.aihall.com/

「地域とつくる舞台」シリーズ アイホールがつくる「伊丹の物語」プロジェクト『イタミ・ノート』

3年間かけて伊丹の歴史と記憶を紐解き、演劇作品を創作するプロジェクト。2年目となる今回は、劇作家・演出家のごまのはえが、市民から公募した伊丹の写真とそれにまつわるエピソードを基に掌編作品を執筆。地域にまつわる逸話や民話、歴史的な出来事まで、スクリーンに映し出された写真を背景に、7人の俳優が“地域の記憶”を演じる。
[日程]10月14日～16日
[会場]伊丹市立演劇ホール(アイホール)

ごまのはえ(左)と写真選びをする参加者

中国・四国

●鳥取県鳥取市
鳥取県立博物館
〒680-0011　鳥取市東町2-124
Tel. 0857-26-8045　林野雅人
http://www.pref.tottori.jp/museum/

日本におけるキュビスム —ピカソ・インパクト

日本におけるキュビスムの受容には奇妙な屈折が認められる。本展は2部構成を取り、ヨーロッパにキュビスムが登場した1910年代以降、同時代の日本の作家たちが新しい表現をいかに受容したか、そして第二次世界大戦という断絶の後、再び多くの作家がキュビスムの形式を取り入れてさまざまな表現、さまざまな主題に向かっていったかを検証する。埼玉県立近代美術館、高知県立美術館にも巡回。
[日程]10月1日～11月13日
[会場]鳥取県立博物館

●島根県雲南市
(株)キラキラ雲南
〒699-1105　雲南市加茂町宇治303
Tel. 0854-49-8500　安部啓子
http://www.lamer-unnan.com/

熱響UNNANプレミアムコンサート 仲道郁代・森麻季デュオコンサート

クラシックの無料コンサートを市内の全6町で開催するフェスティバル「熱響UNNAN2016」のフィナーレを飾る仲道郁代(ピアノ)と森麻季(ソプラノ)によるデュオコンサート。同フェスは地元の協力により店舗や温泉施設なども会場となっており、市民ボランティアにより運営されている。メイン会場のラメールでは地元作家の作品展示なども行われ、音楽以外にも住民が交流し楽しめる場となっている。
[日程]10月10日
[会場]雲南市加茂文化ホールラメール

昨年の「雲南あちこちコンサート」(玉串直美・永瀬未希チェロ・コントラバスコンサート/山里カフェはしまん)

●岡山市
岡山シンフォニーホール
〒700-0822　岡山市北区表町1-5-1
Tel. 086-234-2001　滝澤恵子
http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/

岡山シンフォニーホール開館25周年記念コンサート みんなで紡ぐOKAYAMAの音

ホールオープン記念作品として日本書紀を基に創作されたオペラ『ワカヒメ』が、開館25周年を記念して、合唱に岡山市民合唱団「鷺羽」を加え、一部再演される。プログラム後半はオーケストラの饗演と題し、岡山フィルハーモニック管弦楽団、岡山交響楽団、岡山市ジュニアオーケストラが共演するなど、総出演者は500名に及ぶ。
[日程]9月25日
[会場]岡山シンフォニーホール

●香川県高松市
かがわ文化芸術祭実行委員会
〒760-8570　高松市番町4-1-10
(香川県文化振興課内)
Tel. 087-832-3785　久保政昭
http://www.kagawa-arts.or.jp/88/2016/index.php

かがわ文化芸術祭2016

58回目となる今回はシェイクスピア没後400年を記念し、演劇祭を中心にさまざまなアート表現に取り組む。県内の劇団などが一堂に会する演劇公演などを開催するほか、香川ゆかりの人々が制作から出演まですべて行う戯曲『お気に召すまま』のオペラ化に挑戦する。また同戯曲をテーマにした絵画の展示や、一般公募者のさまざまな表現活動公演も開催。
[日程]10月1日～12月31日
[会場]香川県内一円

●高知県高知市ほか
高知県芸術祭執行委員会事務局
〒781-8123　高知市高須353-2
(高知県文化財団内)
Tel. 088-866-8013　政岡知実
http://www.kochi-art.com/

第66回高知県芸術祭

県民の芸術文化に接する機会を増やし、豊かな地域づくりを進めることを目的に、今回が66回目の開催となる総合芸術祭。高知県文芸賞、助成プログラム「KOCHI ART PROJECTS」採択事業9事業をはじめ、県内各地で芸術文化活動を行う団体・個人が参加し、音楽・美術など11部門から80以上の行事が開催される。オープニングイベントでは、高知県では初となる「日露交歓コンサート2016」を開催。
[日程]9月15日～12月11日
[会場]高知県内各地

九州・沖縄

●北九州市
北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812　北九州市小倉北区室町1-1-1-11
Tel. 093-562-2520　鬼木身和
http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp/

北九州芸術劇場×到津の森公園×北九州市立響ホール「どこをどうぶつる」

今年で4年目となる、劇場と市内文化施設が協力し地域の文化・芸術・自然を生かした創作を行う取り組み。今回は到津の森公園(動物園)との連携により、「人間も動物」をコンセプトに北九州で新たに滞在制作したダンス(大植真太郎、森下真樹)と音楽(田中馨)を交えた公演を行う。
[日程]10月15日、16日
[会場]北九州芸術劇場

●北九州市

枝光まちなか芸術祭実行委員会
〒805-0008　北九州市八幡東区枝光本町8-26
Tel. 093-616-9890　鄭慶一
http://machinakaart.jimdo.com/

枝光まちなか芸術祭

八幡東区枝光本町の商店街を舞台に、日本各地から集まったアーティストや作家が作品を発表する。商店街の本通りを歩行者天国にし、野外での作品上演や子どもとものづくり作家との共同プログラム、旧高級料亭で今は廃屋になった建物を使ったショーケース、一般のワークショップ参加者を募り、枝光でしかつくれない作品創作をアーティストと行い、上演する。
[日程]9月30日～10月2日
[会場]枝光本町商店街ほか

●福岡市

福岡県立美術館
〒810-0001　福岡市中央区天神5-2-1
Tel. 092-715-3551　高山百合
http://fukuoka-kenbi.jp/

九大百年　美術をめぐる物語

1911年に開学して以来、福岡の地域文化の振興に大きな役割を果たしてきた九州大学の足跡を、美術の側面からたどる展覧会。美術評論家としても活動した医学部教授や、工学部壁画制作のために招聘された画家をクローズアップするとともに、教鞭を執った博士たちの肖像など大学ゆかりの作品を展示。大学施設をサテライト会場として、考古学資料や植物画、医療関係のロウ型模型など、学問分野での表現も紹介。
[日程]10月8日～11月13日
[会場]福岡県立美術館、九州大学総合研究博物館、九州大学医学歴史館

●大分県大分市

大分県民芸術文化祭実行委員会
〒870-0029　大分市高砂町2-33 iichiko総合文化センター地下1F（大分県芸術文化振興会議内）
Tel. 080-2736-5108
http://www.coara.or.jp/~fujita/oita_nikikai/oita_nikikai.htm

喜歌劇『こうもり』

今年の大分県民芸術文化祭の開幕行事。一般公募で集まった県民による合唱団と、地元の芸術短大の学生、卒業生らを中心に編成されたオーケストラが、大分出身の声楽家たちと共演を果たす。大分県出身の俳優・石丸謙二郎がフロッシュ役で出演。
[日程]10月1日、2日
[会場]iichiko総合文化センター

●鹿児島県奄美市

奄美を描く美術展実行委員会
〒894-0504　奄美市笠利町節田1834（鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館内）
Tel. 0997-55-2635　花山・郷田
http://amamipark.com/isson/

第15回記念 奄美を描く美術展

美術を愛する人々が、奄美の美しい自然、豊かな人情、独特の文化などに接し、作品を発表する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的に毎年秋に開催する企画展。15回目の記念となる今年は、例年奄美群島で行っている巡回展を東京（銀座・美術家連盟画廊／11月28日～12月3日）で行う。
[日程]10月23日～11月15日
[会場]鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館

●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006　那覇市おもろまち3-1-1
Tel. 098-941-8200　外間一先
http://www.museums.pref.okinawa.jp/museum/index.jsp

日本民藝館80周年 沖縄の工芸展 ―柳宗悦と昭和10年代の沖縄

日本民藝館の開設者である柳宗悦は、戦前、沖縄の工芸や琉球文化の調査研究を行い、多くの品々を蒐集。同館収蔵の1,000点を超える沖縄の工芸品は戦火を免れ、日本屈指のコレクションとなっている。本展では、陶器や染織などの工芸資料と昭和10年代の写真資料を紹介し、沖縄の工芸の魅力をアピールする。
[日程]9月21日～10月23日
[会場]沖縄県立博物館・美術館

講座・シンポジウム

まち劇フォーラム2016

これから大分の演劇人と韓国演劇界との交流、そして市民・芸術家・運営者が協働する劇場を目指して、2日間にわたり開催されるシンポジウム。1日目は市民に愛される劇場として評判の高い沖縄県南城市シュガーホールの芸術監督・中村透氏を招き、「愛される劇場のつくり方」について考える。2日目は「日韓演劇制作交流フォーラム」と題して、韓国演劇界のニューウェーブとして第一線で活動する演劇制作者たちと両国の“演劇の今”について、情報交換や意見交換を実施する。
[日程]10月21日、22日
[会場・問い合わせ]ホルトホール大分　Tel. 097-576-8877
http://www.horutohall-oita.jp/

クリスマス・新春企画 情報求む！

12月号（11月25日発行予定）では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。
下記までどしどし情報をお寄せください。
Tel. 03-5573-4066
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り：11月初旬

特集 アートプロジェクト

前号に続き、全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介します。

※開催地の北から順に掲載。
会は会場、問は問い合わせ先です。
（🐦は地域創造助成事業）

●茨城県　9月17日～11月20日

KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭

海と山が織り成す豊かな自然に恵まれた茨城県北地域で行われる現代アートの国際芸術祭。独自の気候・風土や歴史、文化、食、地場産業など、多くの創造的な地域資源のもつ潜在的な魅力をアートの力を介して引き出す約100点の作品（参加型プロジェクト等を含む。約20の国と地域より参加）が展示される。
会日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町
問茨城県北芸術祭実行委員会事務局　Tel. 029-301-2727

●さいたま市

9月24日～12月11日

さいたまトリエンナーレ2016

開催テーマ「未来の発見！」のもと、国内外で先進的な活動を展開するアーティストがさいたま市を訪問・滞在し、市民と交流しながら、場所性を生かしたさまざまなアートプロジェクトを展開。それぞれ特徴の異なる3つの地域を主要エリアに設定。作品を制作する過程で、市民に取材を行ったり、素材提供を募ったり、参加型のワークショップを開催したりするほか、市民とアーティストの協働による音楽イベントを開催するなど、市民がさまざまな方法で参加できる「共につくる、参加する芸術祭」を目指している。
会与野本町駅～大宮駅周辺、岩槻駅周辺ほか　問さいたまトリエンナーレ実行委員会　Tel. 048-829-1225

●横浜市　10月1日～11月6日

黄金町バザール2016 ―アジア的生活

2カ月にわたり京急日ノ出町駅〜黄金町駅周辺でアーティスト・イン・レジデンスを行い、10月より展示やオープンスタジオ、講座等を行うアートフェスティバル。アーティストが黄金町の日常で得た体験や解釈を作品として発表する「アートプロジェクト」、元違法風俗店をリノベーションし、公開する「まちプロジェクト」を2つの柱にとして展覧会を構成する。台湾の康雅筑（カン・ヤチュウ）やタイのピヤラット・ピヤポンウィワット、津川奈菜、曹明浩＋陳建軍らが参加。
㊔京急線日ノ出町駅〜黄金町駅高架下ほか
㊐黄金町エリアマネジメントセンター
Tel. 045-261-5467

●福井県若狭町
9月17日〜10月10日
若狭熊川まちなみ芸術祭2016
400年程前に宿場町として栄えた伝統的な町並みを散策しながら現代美術が楽しめる芸術祭。上町・中町・下町と3カ所で同時開催され、現代美術を通して地元市民や若い世代を巻き込み、地域の活性化の推進を目指す。最終回となる今年は、初めて台湾からの作家を招き、初日にアーティストトークが開催される。
㊔旧逸見勘兵衛家
㊐若狭熊川まちなみ芸術祭実行委員会　Tel. 090-7718-8027

昨年の展示風景（熊川宿体験交流施設「与七」で作業をする美術家の秋吉かずき）

●愛知県豊田市　9月18日〜10月2日、11月19日〜27日
農村舞台アートプロジェクト2016
全国的にも珍しい農村舞台を活用したアートプロジェクト。7回目を迎える今年は「伝統文化の再生と継続的な支援」「地域資源を活かした現代娯楽の堤唱」をテーマに、国選択無形民俗文化財『黒田人形浄瑠璃』と『小田木人形座』による合同公演や、地元に眠る地歌舞伎の一部を紙芝居形式で復活させた公演などが、市内84の農村舞台のうち、3会場でライブ公演が行われる。また、公募審査で選出された作家によるアート作品展を11月より3会場で開催する。
㊔深見町磯崎神社ほか市内6カ所
㊐豊田市文化振興財団
Tel. 0565-31-8804

昨年の農村舞台公演（怒田沢町諏訪神社農村舞台「寶栄座」）

●京都府木津川市 11月6日〜20日
木津川アート2016
2年ぶりの開催となる芸術祭。今回は豊かな自然の景観が残る木津川市山城地域にて、「いのち」をテーマに開催。絵画からパフォーマンスまで、幅広いジャンルの芸術家を全国から公募。入選した30組と招待作家2名の作品が、山城地域の各所に展示される。
㊔木津川市山城地域
㊐木津川アートプロジェクト事務局
Tel. 0774-73-8191

●大阪府　10月22日〜30日
おおさかカンヴァス推進事業2016
公募で選ばれたアーティストが、大阪の街なかの河川や道路、公園などの公共空間を舞台に作品を展示するプロジェクト。7回目となる今年は、万博記念公園内「太陽の広場」を中心としたエリアを会場に、岡本太郎の「太陽の塔」へのリスペクトを込めた表現など7作品が展開される。
㊔万博記念公園の「太陽の広場」を中心とするエリア、EXPOCITY、万博記念公園駅　㊐大阪府府民文化部都市魅力創造局文化・スポーツ課　Tel. 06-6210-9306

●兵庫県たつの市　11月3日〜13日
龍野アートプロジェクト2016 国際芸術祭「時空の共振」
地域に残された歴史的建造物の保存活用と文化芸術活動の発信を目的に、地域住民等と協力し、2011年より開催しているアートプロジェクト。今年は「時空の共振」をテーマに、たつの市出身の薮田翔一作曲による新作オペラの公演やソプラノコンサートを行う。また、彫刻や写真等の美術作品を音楽と融合させ、地域の文化遺産である旧龍野醤油同業組合事務所（国登録有形文化財）をメイン会場として展示する。
㊔たつの市龍野町旧市街ほか
㊐龍野アートプロジェクト事務局
Tel. 0791-63-3555

●兵庫県西宮市
10月30日〜11月20日
西宮船坂ビエンナーレ2016
棚田など日本の原風景ともいえる光景が残る西宮市船坂地域を舞台に、2010年より隔年で開催されている芸術祭。今年は「大地に還る」をテーマに、地域住民30人で組織する推進委員会メンバー全員がディレクターとなって企画。アーティストが船坂を訪問・滞在し、地域住民と協同して作品を制作し、里山をアートで彩る。
㊔船坂里山学校、茅葺古民家ほか
㊐船坂里山芸術祭推進委員会
Tel. 078-904-1971

●奈良県全域　10月1日〜31日
奈良・町家の芸術祭 はならぁと2016
2011年に始まった空き町家を活用したまちづくりアートプロジェクト。今年のメインエリア高取土佐町では、「人の集い」をテーマに5名の作家が“人”を表現し、「第8回 町家の案山子めぐり」とのコラボレーションも行う。今井町では公募作家10名の展覧会を行い、他のエリアでは地域課題に寄り添ったワークショップなどを行う。
㊔高取土佐町並みエリア、今井町エリア、八木札の辻エリア、吉野町国栖エリア
㊐奈良・町家の芸術祭　HANARART実行委員会
Tel. 0743-25-6126

昨年の展示風景（今井町エリア）
©奈良・町家の芸術祭 はならぁと2015

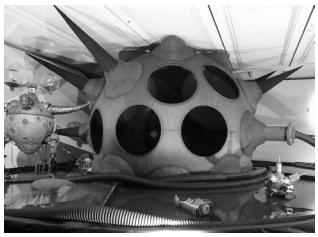
●岡山市
10月9日〜11月27日
岡山芸術交流2016
芸術を通じて国境や文化、世代を超えた交流が生まれることを目指す大型国際展覧会の第1回。リアム・ギリックをアートディレクターに迎え、16カ国31組のアーティストが「開発」をテーマに映像作品や大型インスタレーション、日本初公開となる作品、アーティストが事前に岡山を訪れて制作した作品などを展示する。
㊔旧後楽館天神校舎跡地、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエント美術館ほか
㊐岡山芸術交流実行委員会
Tel. 086-221-0033

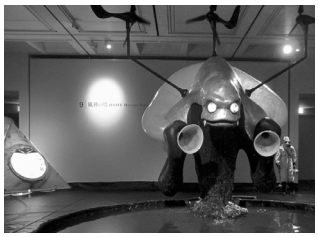
●福岡県糸島市
10月22日、23日、29日、30日
糸島国際芸術祭2016 糸島芸農
美しい自然と豊かな農業などの生産現場に恵まれ、近年多くの工芸家やデザイナー、芸術家などが移り住み注目されている糸島二丈松末地区に、国内外の多様なアーティストが集う芸農祭。今年のテーマは「発酵する地平」。食や農業といった日常生活の関心事を、アートを通して表現し、市民と共に地域に密着した文化発信力を問い直す。藤浩志、眞島竜男、スタジオ クラ、河合拓始、手塚夏子、Charlotte Clermont（カナダ）らが参加。
㊔糸島市二丈松末地区
㊐糸島国際芸術祭「糸島芸農」実行委員会　Tel. 092-325-1773

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

香川県高松市

高松市美術館 特別展「ヤノベケンジ シネマタイズ」





上・エントランスの《サン・チャイルド》(左)と《フローラ》
中:《ウルトラ―黒い太陽》
下:《風神の塔》
Photo: IFA

●高松市美術館 特別展「ヤノベケンジ シネマタイズ」
[会期]2016年7月16日～9月4日
[主催]高松市美術館
[協力]京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、ジャンボフェリー、クリエイティブセンター大阪、MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)、山本現代

＊会場には出演俳優の永瀬正敏が東北で撮影した写真や、香川で江戸時代に治水工事で活躍した矢延平六とヤノベの活動をパラレルに紹介するプロジェクトなども展示された。

島々を舞台にした大型アートプロジェクト「瀬戸内国際芸術祭2016」の夏会期中、お膝元の高松市にある高松市美術館でも意欲的な展覧会が開催されていた。「ヤノベケンジ シネマタイズ」(7月16日～9月4日)である。ヤノベは、巨大な人型ロボットや放射線に反応するセンサーを組み込んだ作品など、近未来的なストーリー性やキャラクター性のある作品を次々に発表してきた現代アーティスト。四国で初の大規模個展となる今回は、その世界観を“シネマタイズ=映画化”という視点で提示し、実際に展覧会場で映画を公開撮影するという異例な企画だ。

●

撮影初日の8月29日、美術館を訪れると、無料エリアのエントランスで6メートルを超える《サン・チャイルド》と《フローラ》が出迎えてくれた。会場は2部構成で、第1部ではヤノベが放射線に関心をもち始めたサヴァイヴァル・シリーズ(1991～96年)、チェルノブイリの原発事故跡地訪問から生まれた作品を含むアトムスーツシリーズ(1997～2003年)など、現実に起こった事件に触発された作品群を図鑑のように整然と展示。そして、銀色のトンネルをぬけた先に圧巻の第二部が出現。天井を突き抜けるほど巨大な《ウルトラ―黒い太陽》が支配し、《風神の塔》が怒りにまかせて数分毎に大量の水を吐き出し、自然をないがしろにしてきた人間を嘲笑っていた。

そこで林海象がメガホンを取り、映画『BOLT』(主演:永瀬正敏)を撮影する様子が公開されたが、作品の重量感、完成度の高さがあいまって、現実が映画に呑み込まれるように迫ってきた。

高松市美では、森村泰昌(2010)、大竹伸朗(2013)と瀬戸芸に合わせて現代アーティストの個展を開催してきた。担当学芸員の牧野裕二さんは、「ヤノベさんは芸術祭の一環で小豆島に作品を設置していますし、作品も親しみやすい。館の方針もあり、3回目はヤノベさんにぜひお願いしたかった」と話す。そして決まったのが“シネマタイズ=映画化”をキーワードにヤノベケンジを読み解くというコンセプトだった。

「映画的とも言える作品の全容と、東日本大震災後の僕の態度を見せたいという思いがありました。それと、同じ京都造形芸術大学で教えていた林監督(現在は東北芸術工科大学教授)と2年前から一緒に映画を撮りたいと話していた。この2つを高松市美で同時に実現したかった」とヤノベさん。林監督も「美術館そのものを映画セットとして撮影できるのは滅多にない機会。これはおもしろい」と快諾した。

一方で、美術館としては2つの大きな問題があった。1つ目は、ヤノベさんは放射線を扱う作品をつくってきた点。映画の内容も、原発事故に立ち向かう男たちの物語である。2つ目は美術館には大敵の水を大量に使うこと。牧野さんは「美術館内で大いに議論しました。結果として作品テーマは原発の良否を問うものではないと判断され、水に関しては万全の対策を取ろうということになりました。瀬戸芸を経験してきたことで、メッセージ性のある現代アートに対する寛容度が行政内でも高まっていると思います」と言う。

実際の設営には通常の展示では考えられないほど膨大な作業量が必要となり、ヤノベさんが京都から連れてきた学生スタッフに加え、職員も総出で手伝った。映画撮影には林監督が教える山形からの学生も参加し、美術館は若者の熱気であふれた。

林監督は、「映画人からするとこんなに協力的な美術館はない。電機室や搬入用エレベーターも撮影場所として使っていますし、館外シーンを撮影する建物も紹介していただいた。高松を中心とした瀬戸内全体にアートに対する支援体制がある」と言う。牧野さんも、「市民も現代アートへの親近感が増してきていると思います。今回の展示に対しても、多くの方が公立美術館で放射線や東日本大震災を扱うことを支持してくれました。見た目の楽しさだけでなく、作品の深いメッセージまで届いているのを知ってうれしかったです」と感慨深げだった。

芸術祭が始まって7年目。地域に根ざす美術館もまた、行政や市民のアートに対する理解の深まりとともに可能性を広げているように感じた。　(アートジャーナリスト・山下里加)